

## 令和5年度社会保障関係予算のポイント(概要)

- 令和5年度の社会保障関係費は、前年度(36.3兆円程度)から+6,200億円程度の36.9兆円程度。経済・物価動向等を踏まえつつ、社会保障関係費の実質的な伸びを高齢化による増加分におさめる方針を達成(年金スライド分を除く高齢化による増は+4,100億円程度、年金スライド分の増は+2,200億円程度)。

### 令和5年度薬価改定

- 改定の対象範囲については、国民負担軽減の観点から、平均乖離率7.0%の0.625倍(乖離率4.375%)を超える品目を対象とする。その際イノベーションの推進や急激な原材料費の高騰に配慮。これらにより、薬剤費の削減▲3,100億円(国費▲722億円)を実現する。

### こども・子育て支援の充実

- 出産育児一時金について50万円に引き上げ(+8万円)。
- 妊娠時から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援と妊娠届出・出生届出を行った妊婦・子育て家庭に対する経済的支援(計10万円相当)をあわせたパッケージの継続実施(370億円)。

### 生活保護基準の見直し

- 検証結果を適切に反映することを基本としつつ、足もとの社会経済情勢を踏まえ、特例的な加算(月額1,000円/人)を行うとともに、それでもなお減額となる世帯は、現行の基準額を保障。  
(単位:億円)

	4年度	5年度	増減
社会保障関係費	362,735	368,889	+6,154(+1.7%)
恩給関係費	1,221	970	▲252(▲20.6%)

(注)4年度予算は、5年度予算との比較対照のため、組替えをしてある。